

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成26年12月8日更新

事務事業名		小中学校卒業記念品贈呈事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上山 幸頭
	施策	20	義務教育の充実			所属課	学校教育課	担当者名	秋吉 秀美
	基本事業	61	徳育の推進			所属班	学務指導班	(内線)	2225
予算科目		会計一般	款10	項2	目1	事業連番10642 他	法令根拠	なし	
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 25年度で終了 <input type="checkbox"/> 25年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	小中学校を卒業する児童生徒に、小中学校の教育課程の修了を祝い、母校への愛着を持ち、誇れる郷土を記憶に残してもらうため、卒業の記念となる品を贈呈する。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	記念品選定業務、単価契約業務、記念品単価契約、購入支払い事務
【主な予算費目】	報償費
【意見や要望】	なし
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)	卒業記念品として小学校では英和辞典を選定、中学校では印鑑を選定し、それぞれ単価契約を結び、各学校ごと統一単価で購入し、卒業する児童生徒に記念品を贈った。	26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
卒業記念品として小学校では英和辞典を選定、中学校では印鑑を選定し、それぞれ単価契約を結び、各学校ごと統一単価で購入し、卒業する児童生徒に記念品を贈る。		卒業記念品として小学校では英和辞典を選定、中学校では印鑑を選定し、それぞれ単価契約を結び、各学校ごと統一単価で購入し、卒業する児童生徒に記念品を贈る。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 円	予算の主な増減の理由
ア:児童一人当たりの記念品単価	円	対象児童生徒数及び消費税増による報償費の増
イ:生徒一人当たりの記念品単価	円	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
小中学校を卒業する児童生徒		(単位)
		ア:卒業する小学校6年生の児童数
		イ:卒業する中学校3年生の生徒数
		人
		人
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
小中学校を卒業する児童生徒に、小中学校の教育課程の修了を祝う		(単位)
		ア:卒業記念品を贈れなかった小学校6年生の割合
		イ:卒業記念品を贈れなかった中学校3年生の割合
		%
		%
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
記念品を贈ることで母校への愛着と誇れる郷土を自身の記念に残すため		全体計画
		~ 年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	23年度実績(決算)	24年度実績(決算)	25年度目標(当初予算)	25年度実績(決算)	26年度目標(当初予算)	27年度予定	28年度見込	29年度見込	
①活動指標	ア	円	1,204	1,167	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	
	イ	円	1,277	1,273	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	
②対象指標	ア	人	604	646	637	676	680	680	680	680	
	イ	人	578	522	520	538	583	583	583	583	
③成果指標	ア	%	0	0	0	0	0	0	0	0	
	イ	%	0	0	0	0	0	0	0	0	
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	人件費	(A)事業費計	千円	1,465	1,428	1,731	1,290	1,784	1,663	1,663	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	3	2	3	3	3	3	3	3
		延べ業務時間	時間	19	15	16	20	16	16	16	16
(B)人件費計	千円	76	61	65	79	65	65	65	65		
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,541	1,489	1,796	1,369	1,849	1,728	1,728	65		

事務事業名	小中学校卒業記念品贈呈事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	学校教育課
-------	---------------	-----	-------------	-----	-------

## 2 評価の部 (SEE)

\*原則は25年度の後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 25年度も記念品を贈る <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 卒業記念品を贈る事業であり、小中学校の教育課程の修了を祝い、母校への愛着を持ち、誇れる郷土を記憶に残してもらうためには、今後も継続して行く必要がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 現場が学校ということがあり限定されるので統廃合・連携が出来ない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 他に単価が安く、卒業生のためになるものがあれば削減余地はある。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 市職員の事業量はわずかなものであり削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 市からの卒業のお祝いであり、受益者負担をとるのは適当でない。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 移行できない

## 3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

小中学校の教育課程の修了を祝い、母校への愛着を持ち誇れる郷土を記憶に残してもらうため、児童生徒に卒業記念品を贈呈した。  
記念品(小学校・国語辞典、中学校・印鑑)については、それぞれに単価契約を結び、各学校ごと統一単価で購入を行った。  
価格等も含め、今後も、卒業生にとって有用な記念品の選定について検討を行っていく必要がある。

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						